

丹波地域大学連携フォーラム

地域とかかわり続ける ～こんなんやったら続けられるで～

報告書

平成25年12月8日（日）9:00～17:30

丹波地域各地（篠山市西紀南地区、丹波市柏原地区及び佐治地区）

佐治コミュニティセンター「来楽館」

主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

はじめに

丹波地域では、現在、関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学の4つの大学が活動拠点を確保し、各地域の課題を踏まえたテーマのもとに、学生が中心となって地域を活性化しようとする取り組みが展開されています。また、大学での授業やゼミ活動の取り組みとは別に、自主的に地域と連携して活動を実践する学生グループも出てきています。さらに、今年度からは、神戸親和女子大学が丹波市山南町久下地区において活動を開始したほか、各地でさまざまな大学が地域と連携した活動を始めています。

このような背景を踏まえ、丹波地域で活動する大学と地域住民や学生相互の交流を通じて、連携のネットワークの形成を図ることを目指し、「地域とかかわり続ける～こんなんやったら続けられるで～」をテーマに、「丹波地域大学連携フォーラム」を開催しました。

当日は、フリーディスカッションに先立ち、学生たちがお互いの地域貢献活動の場を視察し、農作業体験やまち歩きを通じてそれぞれの活動内容について相互に理解を深めたのち、地域活性化に向けて“地域とかかわり続ける”について参加者全員で意見交換し、地域との交流・連携による活動継続の方向性について展望しました。

学生グループからの活動報告では、「活動を継続していると、地元の農家さんとの関係が良い方向に変化してきた」、「活動の継続年数が長くなるほど、学生にとっても地域の方にとっても良い結果になる」といった声が聞かれ、地域の方は、「学生と接することで地域の人同士も繋がり、元気になった」、「若い学生の活力、生き生きした表情やお喋りが、地域の活性化に繋がっていることを実感している」と話され、かかわり続けることで、学生と地域の方との関係も徐々に変化してきているという状況を実感しました。

また、ワークショップ形式のフリーディスカッションでは、各班をプロジェクトチームと仮定し、卒業後も「地域とかかわり続けるために必要な仕組み」を提案し、参加者全員で審査しあうアイデアコンペを行いました。その中で、「必ずその地に戻ってくるために、お墓を持つ」、「SNSを用いて情報発信するだけでなく、掲載された要望が農家さんや業者の人へ届き、都市部と地域を繋ぐ形をシステム化する」といった提案があり、このような学生たちの発想をもとに、今後の活動の方向性が少し明確になったと感じました。

フォーラム開催後には、学生企画の懇親会も開催され、情報共有や議論の続きが賑やかに交わされ、学生たちの交流がさらに深まったことと思います。

今回のフォーラムをひとつのきっかけとして、学生たちの連携のネットワークがさらに広がり、地域とかかわり続けることで、また新たな動きが起き、丹波地域がより一層活性化していくことを願っています。

最後に、このフォーラムの開催にあたり多大なご協力をいただきました各大学や地域の関係者の方々、また、当日ご参加いただきました多くの方々に、改めて深く御礼を申し上げます。

目 次

1. 開催状況の写真	1
2. フォーラムの概要	5
3. 開会挨拶	7
4. 神戸大学と篠山市との連携	8
5. 学生からの地域貢献活動実施報告	10
(1) ささやまファン倶楽部	10
(2) にしき恋	12
※ 学生を受け入れている地域団体からの報告	15
(3) 関西学院大学法学部 4 回	16
(4) 関西学院大学法学部 3 回	17
(5) 柏原まちづくりプロジェクト	19
6. 丹波地域で活動する他大学からの活動報告	22
7. フリーディスカッション・ワークショップ	24
8. 神戸大学と地元レストランが共同開発した試作品について	30
9. 参考資料	31
(1) 活動報告パワーポイント資料	31
(2) 参加者事前アンケート回答	49
(3) 当日参加者アンケート	55
(4) 開催チラシ	60
(5) プログラム資料	61
(6) 実行委員会	65

1. 開催状況の写真

(1) 開会挨拶



実行委員会副会長 客野 尚志 関西学院大学准教授



会場の様子

(2) 活動報告 1 (篠山市西紀南地区)



布施 未恵子 神戸大学大学院農学研究科 特命助教



菅原 将太 ささやまファン倶楽部 代表



関 亜喜奈 にしき恋 副代表



北山 透 西紀南まちづくり協議会 事務局長



にしき恋の管理する遊休農地の見学



冬野菜収穫体験



里山整備箇所の見学



にしき恋 farm 前集合写真

(3) 活動報告 2 (丹波市柏原地区)



青木 耕平 関西学院大学法学部 4 回



藤田 杏里沙・富田 峻・隅田 彩子 関西学院大学法学部 3 回



大森 正江 柏原まちづくりプロジェクト 代表



まち歩きの様子

(4) 活動報告3 (丹波市佐治地区)



まち歩きの様子



佐治のまち並み模型へのマッピングワークショップ

(5) フリーディスカッション



岡崎 敦子 神戸親和女子大学 3 回



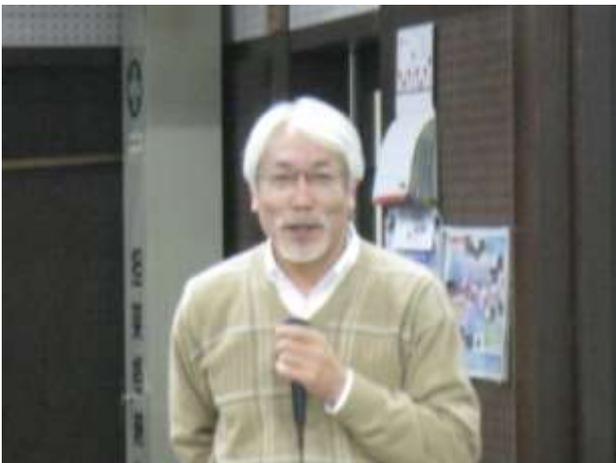
出町 慎 関西学院大学 TAFS 佐治スタジオ 室長



田宮 由梨 氏(ゲスト)



小野 敦史 氏 (ゲスト)



山下 淳 関西学院大学法学部 教授



清水 陽子 関西学院大学総合政策学部 准教授



ワークショップの様子



アイデアコンペ発表

2. 丹波地域大学連携フォーラム 開催概要

丹波地域では、さまざまな大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど、各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。

これらの学生が参加するフォーラムを下記のとおり開催し、それぞれの活動内容について相互に理解を深めるとともに、参加者全員で意見交換し、活動継続の方向性について展望しました。

記

1 日 時：平成25年12月8日（日）9:00～17:30

2 場 所：丹波地域各地（篠山市西紀南地区、丹波市柏原地区及佐治地区）

3 テー マ：「地域とかかわり続ける～こんなんやったら続けられるで～」

4 参加者数：約60名（学生、大学関係者、地域住民 他）

5 内 容：

(1)9:00～16:00 地域貢献活動の場の現地視察

①篠山市西紀南地区（にしき恋・神大+西紀南まちづくり協議会）

- ・学生からの活動報告（にしき恋、ささやまファン倶楽部）
- ・西紀南まちづくり協議会より学生受け入れについて報告：事務局長 北山 透 氏
- ・にしき恋の管理する遊休農地（にし恋 farm）での冬野菜収穫体験、里山整備箇所見学

②丹波市柏原地区（柏原まちづくりプロジェクト・関学+まちづくり柏原）

- ・関学生の案内による柏原地区のまち歩きの実施
- ・学生からの活動報告（柏原まちづくりプロジェクト、法学部）及び質疑応答

③丹波市佐治地区（丹波学生企画部・関大+佐治倶楽部）

- ・佐治地区のまち並み見学
- ・まち並み見学で気になった点や気付いた点をまち並み模型にマッピングするワークショップ

(2)16:00～17:30 フリーディスカッション

○会場：佐治コミュニティセンター「来楽館」

○コーディネーター：神戸大学大学院農学研究科 布施 未恵子 特命助教

関西大学 TAFS 佐治スタジオ 出町 慎 室長

- ・丹波地域で活動する他大学からの活動報告（神戸親和女子大学）
- ・参加者全員による意見交換、ワークショップ

6 主 催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

7 事 務 局：兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課

8 結果概要：

《現地視察1》 篠山市西紀南地区

○ささやまファン倶楽部 神戸大学経済学部3年生 菅原 将太

篠山市真南条上集落において、「里山整備」や、地域の営農組合の方々とともに、農業のボランティアや農作業のお手伝いなどの「援農」の活動を行っている。さまざまな「継続」の形がある中で、地域の方々と学生がともに何に興味があるのかで、継続の形は異なってくるのではないかと考えている。

○にしき恋 神戸大学農学部 2 回生 関 亜喜奈

篠山市西紀南地区において、里山整備や農業ボランティア、地域の遊休農地の自主管理などを行っている。毎週末の活動を継続していると、農家さんとの関係も良い方向に変化してきたと述べ、将来的には、さらに繋がりが強めていくことで、地域の方々や都市部の学生にとっても有益となる形を目指していきたいと考えている。

○西紀南まちづくり協議会 事務局長 北山 透 氏

「学生と接することで地域の人同士が繋がりと、元気になった」という地域の声も多々耳にしており、若い学生の活力、生き活きた表情やお喋りが、地域の活性化に繋がっていることを実感している、と述べた。

《現地視察 2》 丹波市柏原地区

○関西学院大学法学部 4 回生 青木 耕平

柏原を知るため、地域の方々と仲良くなるために、小学生対象のキャンプや若者意見交換会を実施しブレインストーミングを行った。現在は、丹波市の中心市街地活性化基本計画の点検を行っている。

○関西学院大学法学部 3 回生 藤田 杏里沙 他 2 名

地域の夏まつりや地域行事へ積極的に参加するほか、ヒアリング調査や地域の方々との懇談会を実施した。今後は、柏原の魅力再発見を目的とした「柏原ブック」を作成しようと考えている。

○柏原まちづくりプロジェクト 関西学院大学総合政策学部 3 回生 大森 正江

丹波市柏原地区において、「つなぐ」をテーマに、地域イベントへの参加や「まちなかミュージアム提案フィールドワーク」などを行っている。同じ地区で活動する各プロジェクト間や世代間のアイデアや情報の共有が必要であり、また、活動の継続年数が長くなるほど、学生にとっても地域の方にとっても良い結果が生まれるのではないかと述べた。

《現地視察 3》 丹波市佐治地区

○丹波学生企画部 関西大学 植地 惇

丹波市佐治地区のまち並み見学を実施したのち、まち並み見学で気になった点や気付いた点をまち並み模型にマッピングするワークショップを行い、普段とは異なる視点からの意見収集を行った。

《活動報告》 神戸親和女子大学 3 回生 岡崎 敦子

「共感、問題提起、想像、試作、テスト、検証」のデザイン思考のサイクルをベースに、丹波市久下地区において、地域と繋がる空間を形成するために「カントリーハウスの提案」などの活動を行っている。今後も、丹波地域に多く存在する資源を守りながら、それを後世に伝えていきたいと考えている。

《フリーディスカッション・ワークショップ》

コーディネーター	神戸大学大学院農学研究科	布施 未恵子 特命助教
	関西大学 TAFS 佐治スタジオ	出町 慎 室長
ゲスト	株式会社 JTB 西日本	田宮 由梨 氏
	株式会社大林組	小野 敦史 氏

現地視察の感想等を班ごとに意見交換したのち、「地域とかかわり続けるためにはどんな仕組みが必要か」について、班ごとにワークショップを行い、コンペ形式により参加者全員で審査した。

「必ずその地に戻ってくるために、お墓を持つ」「SNS を用いて情報発信するだけでなく、掲載された要望が農家さんや業者の人へ届き、都市部と地域を繋ぐ形をシステム化する」などの発表があり、ゲストからは、「実現可能な提案もあり、是非今後も、学生らしい新しい発想を活かして地域とかかわり続けてほしい」とコメントした。また、大学関係者は、「“関わり”というのは“情報”だけではない」「“物理的な距離の解決”が活動の継続に影響があるのではないか」と講評した。

3. 開会挨拶

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 客野 尚志

皆様、おはようございます。本日は早朝から、また大変寒い中、お集まりいただきありがとうございます。

丹波地域における“大学と連携したまちづくり”というのは、5年目になります。私は3年間ほど、関西学院大学の方で丹波市柏原地区のまちづくりに関わらせていただいております。その経緯もあり、今回このように実行委員会としてご挨拶させていただきます。

一時期、“創発（そうはつ）”という言葉が流行った時期がありました。これは、物理学や生物学の方から出てきた言葉で、これに関連する研究でノーベル賞をとられた方もおられます。その心は、「ひとつひとつの要素やパーツが完全に組織化されてコントロールされているのではなく、それぞれが個々にある大きな目的を共有しながらも、ゆるやかにネットワークしながら全体として動いていて、なんとなく秩序が保たれている。そして、それが結果的に、完全にコントロールされたものよりも大きなパフォーマンスを果たすことがある。」というものです。今までの要素還元的な捉え方では解釈できないものが、解釈できるようになる可能性があるということで、一時期世界を席卷した考え方でした。

実は、“まちづくり”にもそういった局面があるのではないかと考えております。本日、集まっているみなさんは関心も異なれば、専門や立場も異なりますが、“地域のために何か役に立ちたい”という気持ちを共有できていて、それぞれの専門性や役割などについて個々の多様性を認めながら、それぞれがゆるやかに繋がっていることにおいて価値があるものと考えております。

今回のフォーラムでは、専門分野も考え方も異なる5大学の学生が集まり、ゆるやかなネットワークがさらに広がっていくことに大きな価値があると思います。是非、みなさん仲良くなっていただいて、さらにネットワークを広げていただき、その中で自分の可能性について一生懸命考えていただきたいと思います。

本日はどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

4. 神戸大学と篠山市との連携

神戸大学大学院農学研究科 特命助教 布施 未恵子

おはようございます。神戸大学の布施です。よろしくお祈りします。篠山で活動する神戸大学の学生団体は4つありますが、なぜ、そういったいくつもの団体ができてきたのかということをご説明させていただきます。

本日は、すごく寒い建物にみなさんおられますが、学生たちが活動するときには、このような寒い中でも頑張っていることを体感してもらおうと思い、きつこういったセッティングになっていると思っています。

“篠山フィールドステーション”という活動拠点となっている建物は、篠山市のお堀のすぐ側にあります。元々、篠山市には、“兵庫農科大学”という大学がありました。農学部と医学部が中心となった大学ですが、それが約40年前になくなり、そのときに篠山におられた方やそのときにあったネットワークがなくなってしまったので、その繋がりをもう一回紡ぎ直そうということのできたのが、この篠山フィールドステーションです。神戸大学農学部は、その兵庫農科大学を引き継いだところになっています。



神戸大学篠山フィールドステーション

建物自体はここと同じですごく寒いところですが、そこに夜な夜な人が集まり、いろんな会議や打ち合わせをして、篠山市の地域づくりを学生と教員とで行っています。そこにいるのは私の他にスタッフ数名ですが、篠山市内の各地でさまざまな活動をしています。元々は農学部の関係で、農学に関することが多かったのですが、最近は“全学協定”と言いまして、保健や文学、建築など、さまざまな分野の学生が篠山に来て活動することのお手伝いをしています。

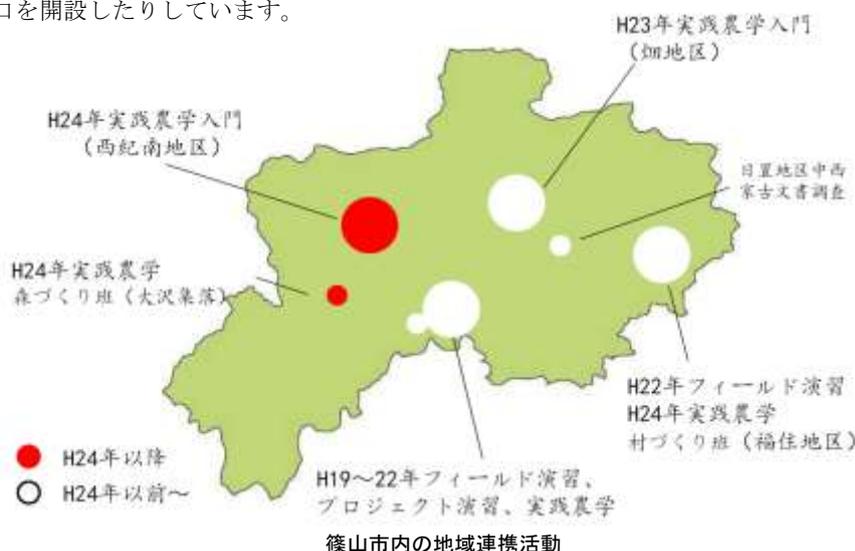
3つの連携事業

地域課題解決と相互の人材育成の充実をはかる

- 1) 地域共同研究
- 2) 地域交流：臨地教育支援、農村地域の学習ネットワーク形成
- 3) 相談情報発信：フォーラムやセミナーの開催、オフィスアワー

ここには、“3つの連携事業”というのがありますが、まず1つ目が事業を進めていく上での“地域共同研究”というものです。これは例えば、地域の方から、「黒大豆でこんな悩みがあるのですが…」と言われればそれを研究として、先生も篠山に連れて来るといことです。それから、“地域交流”に関して、「この地域でもっといろんな賑わいが欲しいんです」と地域の方から話があると、それにあわせて学生や先生たちを連れて行くというイベントを開催します。それから最後に、それらの交流の種や研究の要素を拾い出すための“相談・情報発信”ということで、相談窓口を開設したりしています。

神戸大学の活動が最初に始まった地域は、篠山市の真南条というところで、だんだんとさまざまな地域や地区に活動地域を広げていっています。どうやって広がっているかと言いますと、ただ単にその地に入っていくのではなく、授業を実施しています。1回生の授業で「実践農学入門」というものがあり、毎月1回大型バスで篠山にやってきて、農家さんから黒



大豆の栽培などを教えてもらうというものです。そうしていくうちに、授業を履修していた50名のうちの数名が、もっとこの地域に関わりたいなと思い、新しくサークルを結成するというのが、神戸大学の学生が地域に入る今の仕組みとなっています。この授業を履修している間に学生たち自身でサークルを作り、それから3回生になれば、もう少し具体的に施策提案をしたり農家レストランを開いたりして、1回生のときにはできなかったことを実践していくという形で、できるだけ1回生から4回生まで大学の授業として篠山に関われる仕組みを作っています。簡単ですが以上で説明を終わります。

